

医学系研究に関する情報公開文書

研究課題名	新規治療標的抗原MMG49抗原の多発性骨髄腫における発現の解析
研究責任者	鈴木 憲史(日本赤十字社医療センター) 保仙 直毅(大阪大学)
研究機関名	日本赤十字社医療センター 血液内科・骨髄腫アミロイドーシスセンター 大阪大学大学院医学系研究科 癌幹細胞制御学寄附講座
研究目的と意義	<p>多発性骨髄腫は代表的な血液がんの一つであり、治療の進歩により治療成績は改善してきていますが、依然として治療は極めて困難な疾患です。大阪大学をはじめとする研究グループでは多発性骨髄腫に対する新規免疫療法についての基礎的研究を続け、その結果、治療標的抗原候補(MMG49抗原)を同定し、それを標的としたCAR-T細胞療法の開発に成功しました(Hosen, N., et al. Nature medicine 23:1436-1443, 2017.)。このMMG49 CAR-T細胞療法の臨床応用に向け、AMED革新的がん医療実用化事業において非臨床試験がおこなわれました。今後、多発性骨髄腫患者対象のMMG49 CAR-T細胞療法の治験が実施される見込みとなっています。</p> <p>本研究の目的は以下の通りです。本研究で多発性骨髄腫患者由来骨髄検体を用いて、MMG49 CAR-T細胞療法の治験で対象患者選択のために使用するMMG49抗原測定系の確立を行います。確立した測定系を用いてMMG49抗原の多発性骨髄腫患者由来骨髄検体における発現を明らかにし、探索的に患者情報とMMG49抗原の発現の関係を検討します。</p>
研究方法	<p>① 同意が得られた患者さんに対し、診断、治療効果判定などのため骨髄採取を行う際に骨髄液1-3mlを余分に採取する。 ② 測定施設(BML)に検体を送付する。 ③ 患者由来検体(30検体)を用い、染色条件、フローサイトメーターでの解析方法等を検討し、MMG49抗原測定系(MMG49、多発性骨髄腫に特徴的な複数の細胞表面マーカー抗体を用いたフローサイトメリー)を確立する。 ④ 確立されたMMG49抗原測定系を用いて、患者由来検体におけるMMG49抗原を測定する。(上記③にて測定した症例も含め150例(日本赤十字社医療センター 10例)) ⑤ 検体提供時に個人情報と匿名可した患者情報を収集する。 ⑥ 多変量解析によりMMG49抗原の発現と患者情報の関連を分析する。</p> <p>なお、本研究に同意されない場合、もしくは同意を撤回された場合でも不利益を被ることはありません。</p> <p>ご不明の点につきましては、下記までご連絡下さい。</p>
問い合わせ先	日本赤十字社医療センター 血液内科(骨髄腫アミロイドーシスセンター) 〒150-8935 東京都渋谷区広尾4-1-22 担当者:塚田 信弘 TEL: 03-3400-1311 FAX: 03-3409-1604